



2018年9月18日

メディア関係各位

U 67 Set

ゼンハイザージャパン株式会社（代表取締役：宮脇精一）は NEUMANN 製マイクロフォンの U 67 Set を 10月1日（月）に発売致します。



■製品概要

1960年から1971年まで販売されていた U 67 は当時の現代音楽の形成期を通じて、スタジオの主力のマイクロフォンとして幅広く活躍いたしました。今日のレコーディング業界でもビンテージマイクとしてエンジニアが愛用している U 67 が当時の仕様のまま復刻いたしました。

■仕様・スペック

ポーラパターン	無指向、カーディオイド、双指向
周波数特性	20~20kHz
感度(1kHz,1kΩ)	15/24/16 mV/Pa
定格インピーダンス	200Ω
定格負荷インピーダンス	1kΩ
等価ノイズレベル (A ウェイト)	21/17/20 dB-A
最大 SPL THD 0.5%	124 dB

S/N 比	73/77/74 dB
コネクタ	マイクロフォン本体：7 Pin パワーサプライ出力側： XLR3F
重量	560g
径	56mm
長さ	200mm
Article No	008678
EAN Code	4044155223767

■同梱物

- ・ U 67（チューブマイクロフォン） ・ NU 67 V（パワーサプライ、電源ケーブル付属）
- ・ UC 5（7Pin コネクションケーブル） ・ Z 48（ショックマウント） ・ ビンテージケース

■価格：オープンプライス(参考売価：¥800,000)

■お問い合わせ先
ゼンハイザージャパン株式会社
マーケティング担当
新井
TEL: 03-6406-8911
Email: yasushi.arai@gmail.com



U 67 Q & A

Q：新しいU 67と1960年代のU 67の設計に関して

A：この度販売するU 67はコピーやクローンではなく、当時のU 67とまったく同じ仕様に作られたオリジナルマイクロフォンです。

出力トランスなどの主要部品は、当時の生産図面に従って製造されています。

また、U 67に搭載されているK 67のラージダイヤフラムコンデンサカップセルは、現行製品のU 87 Aiで使用されているので、今日まで常に生産され続けております。

新しいU 67の周波数特性は、1960年から1971年に販売していたU 67の周波数特性と同じです。（当時のU 67の状態が良好な場合）

尚、1992年に限定生産されたU 67はわずかに明るい特性に調整されています。

新しいU 67では調整はされておらず、1960年代のU 67本質的に同じリニアレスポンスとなっております。

U 67は大型カスタム設計の出力トランス、大量のチューブの中からセレクトされた高品質のチューブ、再設計されたトロイダルトランスを備えた電源など、非常に高価な部品が含まれています。

現在、U 67は特別に訓練された技術者3人のみによって製造されています。

Q：現行の電源のNU 67 Vはスイッチング電源ですか？

A：いいえ。U 67用の古い電源と同様に、NU 67 Vは、1992年のNU 67 Aと同様に、トロイダルトランスを備えたリニア電源です。

Q：新型のNU 67 V電源を1960年代のU 67で使用できますか？

A：はい。NU 67 Vは、1960年代のU 67と互換性があります。

フィラメント電流能力が高いため、フィラメント電圧を一定に保ちながら、チューブに電流を供給します。

Q：新しいU 67で古いNU 67（1960年代）およびNU 67 A（1992年）電源を使用できますか？

A：いいえ。現行のチューブでは、わずかに高いフィラメント電流が必要となり旧式のNU 67電源では提供できません。

仮に用いた際、新しいチューブを著しく過熱するため、動作中に上昇する過剰ノイズが発生する可能性があります。

Q：1960年代のU 67マイクロフォンに新しいNeumannのEF86チューブを使用できますか？

A：はい。新型のNU 67 V電源のみで使用できます。旧式の電源を用いると新しいチューブを大幅に過熱するため、動作中に上昇する過剰ノイズが発生する可能性があります。

Q：現行のU 67でデットストック（NOS）EF86チューブを使用できますか？

A：はい。可能です。新しい電源は古いチューブを過熱しません。

フィラメント電圧を一定に保ちながら、チューブが必要とする電流を供給します。

ただし、すべてのEF86チューブがマイクロフォン用に適合していません。

最小のノイズと最適な音を得るためには、チューブをテストして、さまざまな特性を選択する必要があります。